

東京大学むら塾取組概要

都道府県名	東京都	市町村名	目黒区
-------	-----	------	-----

団体名	東京大学むら塾
-----	---------

1. 団体の概要

設立年：2015年4月
構成員：大学生（東京大学に在籍する学生）
構成員数：120人
役割分担：内代表1名、副代表2名、会計1名、その他幹部6名
顧問：中里良一（一般財団法人日本グラウンドワーク協会理事）

2. キャッチフレーズ

農業×地域おこしで、むらの未来を変える

3. 活動のきっかけ

中里良一氏が関東、甲信越、北陸、沖縄の大学の学生サークルで構成される「農業農村を応援する大学生サークルネット」をたちあげ、農業やむらづくりの応援のために大学生を各地域に派遣し始めたのが始まり。東京大学の学生によって2015年4月に結成された当団体が中里氏から斡旋を受け、千葉県富津市相川・梨沢地区で活動する谷田皿引農地水保全会との協議を同年9月に実施し、相川・梨沢地区との連携活動を始めた。

4. 取組概要

遊休農地の活用等を通じて地域コミュニティの活性化に貢献。地域ブランディングによる6次化の実現。

5. 取組の具体的内容及び成果（効果）

①地域（大人と子供）との交流による交流・関係人口の増加及び地域活性化

1)地域の伝統的な祭礼への参加

2)地域課題について住民と議論するワークショップを主催し、24人の住民が参加。

3)地域在住の子供たちに勉強を教える「寺子屋」を夏休みに実施。コロナ禍の2021年はお薦めの本や読書の重要性を伝える企画をオンライン開催した。

②遊休農地の農地復元と栽培作物のブランド化

相川地区の遊休農地で天日干しコシヒカリを栽培。38aの農地を耕作した。収穫後はブランド米「てとて」として発信し、販売促進している。

③むらおこしコンテストの実施

『地域目線で「日本一ミクロな」地方創生を。』をモットーに住民目線のプランコンテストを富津市協力のもと主催。2020年実施。16大学所属の25人の学生が参加。プランコンテストには地域住民約200人が来場し、富津市長からも「提案を施策の参考にする」と評価を受けた。

④大学の学園祭（駒場祭、五月祭）における地域農産物のPR、販売

相川・梨沢地区の住民が作った野菜等農産物やその加工品を、集客が全国最大級の学園祭においてPR、販売。20万円以上の売り上げをあげた。

⑤富津市ふるさと納税の返礼品提供

富津市のふるさと納税「ふるさとふつつ応援寄附」の返礼品として学生が遊休農地において栽培、収穫した米「てとて」を提供し、全国各地に発送している。

6. 活動実績							
項目	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度 (見込み)
学生交流人数	人	158	299	280	682	142	244
	解説：地域に訪問、交流した学生ののべ人数						
遊休農地の米収穫量	kg	-	1420	1260	1560	-	9月に収穫予定
	解説：遊休農地から収穫されたブランド米「てとて」の収穫量						
ワークショップ回数	回	-	12	13	11	-	-
	解説：相川・梨沢地区でのワークショップ開催回数						
寺子屋の実施回数	回	1	2	4	4	-	2
	解説：寺子屋の実施回数						
むらおこしコンテスト参加学生の所属先		-	-	-	16	-	2月に実施予定
	解説：むらおこしコンテスト in ふつつへの参加学生が所属する大学数						
学園祭における売り上げ	円	171,780	251,660	156,070	101,905	-	-
	解説：大学の学園祭（駒場祭）における地域の農産物等の売り上げ						
ふるさと納税額	円	-	85,400	87,830	102,070	-	-
	解説：返礼品の米「てとて」によるふるさと納税額						

7. 活動の主な変遷						
初年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度 (見込み)
団体創設 富津市相川・梨沢地区での活動開始	学園祭（駒場祭）での地域農産物のPR,販売等	遊休農地での稲作の開始、ふるさと納税等	富津市役所にて寺子屋開催、地区祭礼へ参加等	むらおこしコンテスト in ふつつ 初開催等	主にオンラインでの活動等	むらおこしコンテスト in ふつつ 2022 開催等

8. 今後の展開方向。

遊休農地において栽培中のレモングラスを利用したハーブ商品の開発や、ホップを用いたクラフトビール作りなど、新しい地域ブランドを創るための準備を進めている。また、中山間部での獣害問題への意識を都市住人と共有するため、地域の害獣駆除組織と協力し、駆除した個体の革加工・販売を実施する。さらに、SNSやウェブサイトによる広報活動を通じて相川・梨沢地区を中心とした地域の活性化を幅広く進めていく方針である。

9. 活動状況がわかる写真、効果を示す図表



(遊休農地での田植えの様子)



(ワークショップの様子)



(地域の小学校で寺子屋を実施)



(第1回むらおこしコンテストの最終発表会)



(地域の農産物を学園祭にて販売、PR)



(ふるさと納税イベントで「てとて」をPR、販売)

10. 表彰等の受賞歴

--	--

11. 活動に関するPR・エピソード

学生団体という特性を活かし、地域に新しい視点を提供できるよう様々な活動を行っている。例えば、コロナ禍で実地活動が困難になった昨年度も、新たに youtube チャンネルを開設し、団体や地域に関する外部への発信を活発に行った。

一方で、地域に根付いた活動を最も重要視しており、富津市の中でも相川・梨沢地区という小さな地区を拠点とすることで、6年間かけて地域住民との関係性を強固なものにしてきた。

また、実際に連携地域に足を運び、農業などの活動を通して地域の良さや課題を直接体感することで、様々な学びを得ることや、学生ゆえの何にも縛られない自由な視点を地域に提供し、住民が地域課題について真剣に考えたり地域の良さを再発見したりするきっかけを創ることも、その中で自分たちの活動の価値であると思っている。

加えて、富津市の協力を得て活動を行っているのも当団体の活動の特徴である。特に、むらおこしコンテストは企画段階から富津市と協働という形を取りながら地域住民や学生への働きかけを行い、最終発表会には富津市長も参加。また、富津市のふるさと納税にも貢献している。